

44

千代田区景観まちづくり重要物件

聖橋

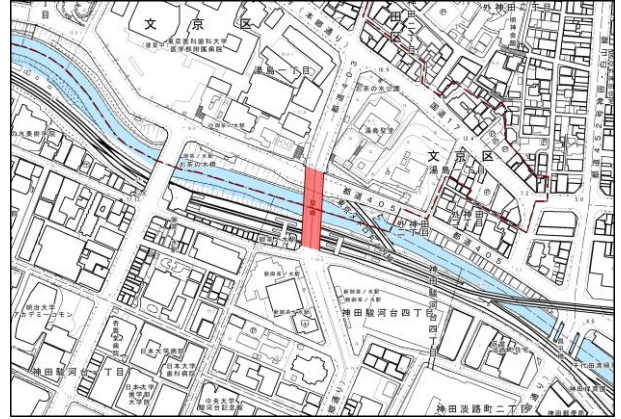
指定日 2007（平成 19）年 3 月 28 日

所在地 神田駿河台四丁目 5,8 番地先～文京区
湯島一丁目 4,5 番先（神田川）

設計者 山田守、成瀬勝武

竣工 1927（昭和 2）年
2017（平成 29）年補修工事

文化財等
指定状況



▲聖橋全景

歴史・文化的特徴

聖橋は、1927（昭和2）年に関東大震災の復興橋のひとつとして架けられました。

橋の名前は一般から懸賞募集され、北の神田聖堂と南のニコライ聖堂という二つの聖堂を結ぶ橋として「聖橋」と命名されました。

2016（平成28）年より、橋の躯体表面を覆っている保護コンクリートをはがし、躯体に入った亀裂を補修し、新たな保護コンクリートで覆うといった長寿命化工事が始まり、2017（平成29）年に完成しました。

意匠・構造の特徴

東京電信電話郵便局の設計などで知られる山田守がデザインした橋梁の代表作となっています。当時建築デザインにおいて流行した表現派風の塑形的な意匠が特徴的です。親柱、高覧は一体化してモダニズムの影響を感じるデザインとなっています。

現在は護岸の緑が育ち全容がわかりにくくなっていますが、神田川にかかる大アーチに外堀通りや中央線の線路をまたぐ小アーチ橋が付属した橋梁となっており、こうした構成のため橋の全長は約90mで神田川にかかる橋梁のうち最も長いです。

橋は船から見上げた時に最も美しく見えるようにデザインされていると言われ、御茶ノ水駅のホームからは、ややそれに近い視点から橋を眺めることができます。立体的な橋脚美は、北区滝野川の音無橋のモデルともなっています。

周辺景観との関係

橋上は神田川の溪谷を見下ろす絶好の眺望点となっています。また相対するお茶の水橋の全景を見ることが出来る視点場となっています。

溪谷の開けた空間が広がり、相対するお茶の水橋、JR線や駅など各所から、溪谷に調和してアーチが水面に映える光景を見ることができます。橋梁は一带のランドマークとなっています。

水面からはアーチ橋と護岸の緑、神田川の水面から構成される雄大な風景を鑑賞できます。



◀ 聖橋と丸の内線